

124工程で完成する 輪島塗の伝統を守る

生地にケヤキやアテ(あすなる)の木を用いて、生地、塗り、加飾など、実に124工程もの手作業を重ねて塗りを施す。堅牢優美と称され、世界にその名は知られているが、分業を担う職人の高齢化が進んでおり、現在、技術の伝承が懸命に行われている。



1「漆塗りは誰にでもできる地道な作業。でもそのコツは自分自身でつかむもの」と話す。2 お喰い初め用の膳と器31万5000円。3 6人の弟子を抱える赤木さんは、上塗りをしつづ全体をプロデュースする、塗師と呼ばれる職を担当。

赤木明登うるし工房

塗師・赤木明登さんの工房。伝統的な形を継承しながら、現代らしさを吹き込んだ器は、温かく、思わず手に触れたいくなるおらかなさがある。普段使いの漆器を追求したその作風で人気を得て、毎月のように全国で個展を行う。

Data 石川県輪島市三井町内屋ハゼノ木75

☎0768・26・1922 見学者は事前に連絡を。

塗師

赤木明登さん

Akagi Akito

1994年に独立。97年にドイツ国立美術館「日本の現代塗り物12人展」に選ばれるなど、国内外から高評価を得ている。

